楓

考れば、日本の紅葉にも異種數百種あるがごとく、彼國にてもいろ〳〵の楓あるべし別に召れしは唐土にての最上の品なるべし、然れども唯詠めに興ずるには、日本の楓遙に勝れり、我國のをこそ愛すべし、又或說に日本には楓なし、されば日本にては唯紅葉、或は機樹鷄冠木（けいくわんぼく）などゝ稱すべし、楓とは稱すべからずといへるも僻說なり、日本にいふ處のものは、楓の外なるものにはあらず、唯楓の同類異種なれば、紅葉を楓と稱して當らずとはいふべからず、又余が霧島山の奥に入し時、種々の奇樹異草數々見し中に、彼楓に甚だよく似たるもの有りき、余元來本草物產の學に疎ければ、當否はしらず、玄ばらく玄るして後の博識者をまつ、

〔倭名類聚抄二十木〕楓　兼名苑云、楓一名欇風攝二音、和名乎加豆良、爾雅云、有脂而香謂之楓、

〔箋注倭名類聚抄十木〕按爾雅云、楓欇々、說文云、楓一名蕈、上林賦注、張揖曰、楓欇也、蓋或復言蕈々、或單言蕈也、兼名苑蓋本說文也、又云、楓木也、厚葉弱枝、善搖、說文云、蕈木葉搖白也、徐音之涉切、蓋以木葉動名蕈也、廣韻云、蕈、樹葉動貌、叱涉切、音謵、廣韻又有欇字、云虎櫐、書涉切、音攝、又時攝切、音涉、是蕈欇二字不同、而後人楓蕈字移木在傍、與虎櫐之欇混無別、故爾雅云、欇虎櫐、又云、楓欇々、陸德明欇虎櫐音云、郭音涉、楓欇々音云之涉反、二字其形雖同、其音自異、此以攝音欇者誤、下總本有和名二字、按、乎加豆良與香要抄合、本草和名唯云、和名加都良、〇中略　按原書釋木云、楓欇々、郭注、與此略同而少異、所引蓋舊注、則爾雅下似脫注字、而廣韻引爾雅云、楓有脂而香、不云注、郭注爾雅楓欇々云、楓樹似白楊、葉圓而岐、有脂而香、今之楓香是、與此少異、所引或舊注、依郭注、楓下恐脫香字、王念孫曰、攝々動貌也、欇之言攝也、韓子外儲說右篇曰、搖木者、一一攝其葉、則勞而不徧、左右拊其本而葉徧搖矣、攝與搖皆動也、楓之言風也、廣雅曰、風動也、史記司馬相如傳索隱引舍人注曰、楓爲樹、厚葉弱莖、大風則鳴、故曰楓、是楓與欇々皆以動名之也、

〔爾雅註疏九釋木〕楓欇欇註楓樹似白楊、葉圓而岐、有脂而香、今之楓香是、欇音輙　疏說文云、楓本厚葉弱枝善搖、一名欇欇、郭